

おそらく町田さんが赤ん坊の頃以前につくられたベビーベッドを考察してから、のびのびと入浴。滝湯(うたせ湯)は1人仕様である。



城下町長府に唯一残る

朝日湯

お気に入り銭湯



下関における銭湯の集中している場所は、下関駅から唐戸周辺にかけて。この地区に9軒もあるが、今回紹介する長府においては「朝日湯」のみが、現在は営業している。

朝日湯は城下町長府の「乃木さん通り」を一步入った角地に建つ。外観は平入りで、一部木造りのレトロ風の趣のある銭湯だ。私から見てもこれだけでもポイントが高い。

中に入ってみると、使い込まれた番台が目につく反面、下駄箱などは最新式のアクリル製のものが使用されている。

ご主人の山田美津雄さん(昭和12年生まれ)が、とてもその年には見えず若々しいのは、毎日オゾン浴泉に入っているからだろうか。山田さんによると、先代の谷五郎さんが昭和20年頃に営業を始めたという。当初は平屋だったものを後に2階建てとしたものの、入口は銭湯のお客と同一だったために、脇に出入口を造ったそうだ。脱衣所の鉄の柱は2階にした時に補強のために使用したも



歴史の街長府によく似合う落ち着いた外観の銭湯。散策の前後に立ち寄ってみたい。

のである。燃料は現在は重油だが、かつてはオガ屑から石炭、廃材と、その時代とともに変化しているとのこと。

一方浴室も何回かは改装されているものの、天井は当時の木造とトタンのカバーを張ったままだという。浴室の角にある「滝湯」と大きな文字の入った「うたせ湯」は頭の上から湯水が出ているので、なかなかの人気だという。

女性側脱衣所にある今はほとんど使用されることのない木製のベビーベッドは、ご主人自慢のクギを一本も使用していない造りだという。このベッド、私にはまさに、この銭湯の歴史を全て知りつくしている証人のように見えたのであった。

083